



目次

* TOPICS

* 調査・企画部門

* ユビキタスリサーチ支援部門

* ヒューマンリソース部門

* プロジェクトメンバー紹介

3年の期間で始まった「女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト」もいよいよ最終年度を迎えました。2008年3月に開催された外部評価委員会では、現在までの経過について高い評価を頂きました。今後の一年間に、本期間の終了後いかに本プロジェクトを継続させて行くかを検討するように課題を頂きました。最終年度としてこれまでの実績を基に、本プロジェクトの目的である「出産・育児と研究活動の両立支援」と「女性研究者の活躍の場の拡大」の具現化を目指し、各部門の活動を推進します。これと同時に実施内容・成果の評価についてのとりまとめを行い、日本女子大学モデルとして世の中に普及させてゆくことを目指したいと思っています。皆様方のご支援も期待して、ニュースレター第3号をお届けします。

TOPICS

～「科学技術週間」参加イベント 女性と科学2008 の開催～

科学技術について、広く一般の方々に理解と関心を深めて頂き、我が国の科学技術の振興を図ることを目的として、文部科学省は発明の日である4月18日を含む1週間を「科学技術週間」としています。

本プロジェクトおよび本学理学部・理学研究科が主催で、昨年引き続き「科学技術週間」にイベント参加をし、サイエンスカフェやポスターセッションなどを行いました。

<サイエンスカフェ>

効き脳診断『あなたは右脳？左脳？』

日時：2008年4月12日 13:30～15:00

協力：フォルティナ株式会社

学部・大学院生を対象に自己分析セミナー（効き脳診断）を行いました。昨年実施した自己分析セミナーでは、行列ができてしまったため、今回は診断後のフィードバックは講習会形式で行いました。その結果、効率よく診断を行うことができ、受検者を長時間待たせることなく実施することができました。また、フィードバックではグループディスカッションも行ったため、友人の結果を参照することで、改めて自己診断を行う効果もあり、参加者から好評を得ました。



効き脳診断の光景

<ポスターセッション>

日時：2008年4月14～19日

理学研究科の修士論文のポスター展示と共に、本プロジェクトのポスター展示を行いました。研究発表の紹介と共に、研究の継続を支える取組みを伝える良い機会となりました。



～U-リサーチャー&研究助手の交流会の開催～

2007年12月19日に、U-リサーチャーと研究助手による交流会を開催しました。U-リサーチャー5名と研究助手7名が参加し、そのうち2名のU-リサーチャーが多地点接続テレビ会議システムを利用しての自宅からの参加でした。1時間超にわたり活発な意見交換を行い、「色々なキャリアの方がいらっしゃるって、また様々なスタイルで研究を行っているということがわかり、勉強になると同時に大変励みになりました」などの感想が寄せられました。



3地点同時接続画面



交流会の光景

調査・企画部門

本年度もシンポジウムと多数の科学教室を企画・開催いたします。

<シンポジウム> 2008年7月26日 「女性研究者を支える側からみたサポート体制」

基調講演：塩満典子氏（元内閣府・男女共同参画局課長）、東和美氏（株式会社資生堂 品質保証センター 学術室）

一般講演：蟻川芳子副学長、遠山嘉一客員教授（遠山元文部科学大臣のご主人）、今野良彦教授、中神祥臣教授、

島中秀樹特任准教授（九州大学大学院）

<夏休み自由研究シリーズ>

2008年8月21～28日

「光がつくる3次元の世界ーホログラフィー」
(小館教授、駒井助教)

「ザリガニの行動の不思議」(宮本教授)

「風はなぜ揚がる？」

(今城教授、日本カイトフォトグラフィー協会
会長 室岡氏)

<理学部サマースクール> 2008年8月4～11日

数学：「ランダムな現象を探る」

物理：「光ファイバー ～光と音の世界～」 「超伝導の不思議な世界」 「音を目で見てみよう！！」

化学：「作ってみよう 蛍光物質と藍染め染料」 「七宝を焼こう」 「虹をつくる科学」

「分子のかたちと香りの不思議な関係」 「緑なす地球の歌」

生物：「つぼみ培養によるバイオフラワーづくり」 「アフリカツメガエルの受精と発生」

「挑戦！DNA実験」 「消化酵素の効き目を試そう」 「ミクロの世界の造形美」

「遺伝子を導入して、光る植物をつくらう」

「世界のフルーツ～どこを食べているか確かめよう～」



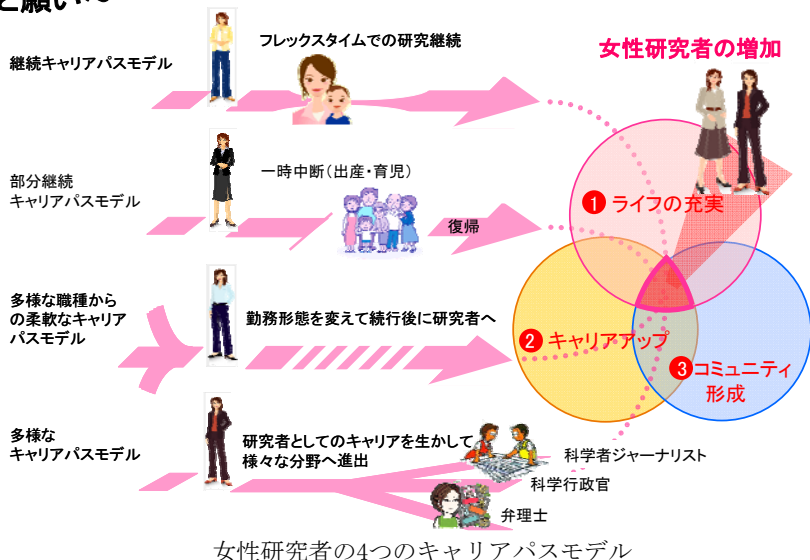
ユビキタスリサーチ支援部門

～「マルチキャリアパス」にこめられた理念と願い～

本プロジェクトの名称である「マルチキャリアパス」、これには「女性には多様で柔軟なキャリアパスが提示されるべきである」という私達の理念と願いがこめられています。

結婚・出産や種々の社会通念など、女性研究者の歩む道には様々な障害がありますが、それらを受け入れつつ柔軟にキャリアを選択するという道も必要です。私達は、研究者としての資質・能力は、どのような過程で獲得されたかの途中の道筋には関係がなく、またその研究活動ももっと多様で柔軟であっていいと考えています。

本プロジェクトでは4つの女性研究者モデルを提唱しています。



～U-リサーチャーの紹介～

昨年度に引き続き、子育て中の研究者（U-リサーチャー）に様々な支援（研究助手の配置・自宅と大学をつなぐテレビ会議システム・病児保育など）を行っています。今回のニュースレターでは、2007年度に支援した5人のU-リサーチャー達を、4つのモデルにあてはめてご紹介します。



<モデル①:継続キャリアパスモデル> —中断したくない人には、継続できるように支援する—

専任職についている女性研究者であっても、子育て中に研究の活性が落ちてしまうことは、自分のキャリア形成の上で大きな問題です。そこで、産休・育休中はもとより、子どもが小学生の間まで、研究のアクティビティを低下させないような支援を行います。

蕪木智子さん（家政学部・食物学科・助教）

～産休・育休中だって研究はできる～ 子どもの年齢：0歳、3歳

研究内容：たんぱく質エネルギー栄養障害における腸管免疫機能の解析

「産休前から支援を受けたため研究助手の方に研究を引き継ぐことができ、立ち上げ始めていた調査研究を無事終えることができました。図書館の文献検索が自宅から可能となった事も、大変助かりました。第一子出産の際に経験した研究中断を第二子においても予想し、目指している学位取得の予定も遅延を覚悟していましたが、おかげさまで研究が継続でき、学位取得申請の目途がたちました。」



永田典子さん（理学部・物質生物科学科・准教授）

～子育ては長丁場、息の長い支援を受けたい～ 子どもの年齢：9歳

研究内容：高等植物における細胞小器官の分化に関わる超微構造学的研究

「最大の成果は、実験の継続性です。研究助手に仕事を引き継ぐことができるため、安心して実験がはじめられます。テレビ会議システムで自宅からも指示出しやデータ・画像のやり取りが即座にできます。これにより、研究助手・院生・卒研生達にも安心感が広がり、研究室の運営も安定しました。子どもが病気のときも、予定していたゼミを中止することなく行うことができ、不測の事態にも対処できるという安心感は大きいです。」



<モデル②:部分継続キャリアパスモデル> —中断したって大丈夫、復帰するために支援する—

夫の転勤や出産を機に退職し、研究を中断してしまった人は多いでしょう。中断するというのも女性の生き方の1つの選択肢だと私達は思います。本プロジェクトでは、退職等により研究を中断してしまった人に対しても、研究現場に復帰することができるように支援を行っています。



テレビ会議システムを利用した大学院の授業

才田有子さん（理学部・数物科学科・学術研究員）

～夫の転勤で退職、ブランクはあるけど研究現場に戻りたい～ 子どもの年齢：2歳

研究内容：回折型光機能デバイスの最適設計と評価

「夫の転勤に伴い退職し、しばらく仕事をしていない状態でしたが、本支援により研究を再開することができました。自宅が遠方のため、研究助手との打ち合わせやゼミ参加、また大学院の授業など、テレビ会議システムは大いに利用しています。電話やメールと違い、テレビ会議で実際に顔を合わせて話すことは、在宅で研究を進める上では重要なことであると再認識しています。」



<モデル③:柔軟なキャリアパスモデル> -違うキャリアだからこそできる研究がある-

専任職についていなくとも、色々な形で研究を続けることはできます。違う分野で活躍した人が、そのキャリアを生かして研究現場に戻ってくることもあるでしょう。研究者としての能力は、どのような過程で獲得されたかの途中の道筋には関係がありません。私達は、そういう柔軟なキャリアを持つ方も支援します。



藤原宏子さん(理学部・物質生物科学科・学術研究員)

～柔軟な勤務形態を選びながらもオリジナルな研究を続行～ 子どもの年齢:1歳



研究内容:鳥類の音声記憶についての神経行動学的研究

「非常勤講師などを兼務し、また種々の社会活動(男女共同参画など)に携わりながらも、一貫して鳥類の音声記憶についての研究を続けてきました。本支援を受けることにより、実験・データ解析を研究助手が担当してくれたので、私は研究成果の公表に集中することができました。特に、私たちの研究が朝日新聞に取り上げられたことは、大変ありがたい貴重な体験になりました。」

<モデル④:多様なキャリアパスモデル> -研究者としてのキャリアを生かして多様な職種へ-

「研究者」というと大学・研究所・企業などで研究する者というイメージがありますが、実社会には科学的な専門知識や実践能力を必要とする職種は意外に多いのではないのでしょうか。私達は、研究というキャリアを生かし、様々な分野で活躍する人を育て支援しています。



藤井恵子さん(本学附属高等学校・理科教諭)

～博士の学位を取得後、研究を続けつつ教育現場で働いて～ 子どもの年齢:1歳、5歳



研究内容:カスタムアレンジ型eラーニングシステムを用いた高大連携の物理教育

「自分自身の研究経験を生かして高校生の教育に携わりたいと希望し、理科教諭となりました。育児と教員の仕事に忙しく、研究を継続することは難しいと半ばあきらめていたのですが、本支援により続けることが可能になりました。教育現場だからこそできる研究があり、また研究を続けているからこそできる教育があると思います、日々励んでいます。」

ヒューマンリソース部門

～eポートフォリオシステムの運用開始～

eポートフォリオを研究業績や資格だけでなく、競争的資金の獲得状況、特殊装置の取り扱い、キャリアパス(就業履歴、出産時期など)も入力できるように拡張し、就職・転職情報を閲覧・検索できる機能を構築しました。また、自己分析診断(効き脳診断)をWeb上から実施できる機能を付加し、U-リサーチャー及び研究助手へ運用を開始しました。卒業生対象のアンケートにおいて、大学の機能として、卒業生コミュニティ発足、再就職・転職の支援が求められていることが再確認されたため、学生、研究者を対象に開発を進めてきたeポートフォリオシステムを卒業生にも公開し、登録を開始しました。

～サイエンスカフェの開催～

女性研究者のコミュニティの場の提供として、各回、様々なジャンルで活躍をさせている方を話題提供者にお招きし、サイエンスカフェを開催しています。

第2回

日時:2007年12月14日 13:30~16:00

話題:ヨーロッパの女性研究者の現状について

話題提供者:

Dr. Heidi Ottevaere (Vrije Universiteit Brussel)

電子工学を専攻され、現在、3歳の男児の母で研究を継続。

Heidi氏について早稲田大学の中島教授よりご紹介頂き、Heidi氏より、ヨーロッパで働く女性の育児事情などについて、彼女の実生活を紹介しながらお話頂きました。また、ヨーロッパにおける理科教育の現状についても話が及びました。短時間ではありましたが、有意義なディスカッションの場となりました。



終了後、さくらナースリーを見学

第3回

日時:2008年3月6日 18:00~21:00

話題:ライフイベントを考慮したキャリアパスプランを考える

話題提供者:山口幸子氏(テンプスタッフ株式会社)

共催:日本光学会コンテンツ・オブティクス研究会

山口氏より、「ライフイベントと自分自身とを向き合う」という話題提供のワークショップを交えながら参加者各人が考え、意見を述べていきました。20代~60代までの幅広い年齢層が集まり、各年代で生じるライフイベントに対して、いかにキャリアと向き合うか・向き合ってきたかをディスカッションをしました。会が終わっても、部屋の各場所でディスカッションは続き、皆が別れを惜しむほど、充実した会となりました。



ディスカッションの様子

～第5回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

ポスター優秀賞 受賞～

2007年10月5日に開催された、第5回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム(於:名古屋大学)のポスター展示で、優秀賞を受賞しました。



表彰状



授賞式

プロジェクトメンバー紹介

本プロジェクトを運営するメンバーご紹介いたします。

総括責任者：後藤祥子
日本女子大学学長



プロジェクトリーダー兼
ヒューマンリソース部門リーダー：
小館香椎子 理学部数物科学科教授



プロジェクト推進室長：遠山嘉一
理学研究科客員教授



理学研究科委員長：今井元
理学部数物科学科教授



理学部長：久保淑子
理学部数物科学科教授



理学部数物科学科長：黒澤格
理学部数物科学科教授



理学部物質生物科学科長：今市涼子
理学部物質生物科学科教授



～ユビキタスリサーチ支援部門～

本年度より、宮本教授がリーダーに就任しました。

リーダー：宮本武典
理学部物質生物科学科教授



サブリーダー：永田典子
理学部物質生物科学科准教授



～ヒューマンリソース部門～

eポートフォリオの構築、サイエンスカフェの開催などを行っています。

サブリーダー：小川賀代
理学部数物科学科准教授



駒井友紀
理学部数物科学科助教

～調査・企画部門～

調査・企画部門は蟻川副学長をリーダーとして、「調査部門」と「企画部門」から成ります。それぞれの部門にサブリーダーが配置され部門メンバーと業務をしています。



リーダー：蟻川芳子
理学部物質生物科学科教授
副学長

<調査部門>

サブリーダー：大枝一男
理学部数物科学科教授



高橋雅江
理学部数物
科学科教授



高橋征三
理学部物質生物
科学科教授



金子堯子
理学部物質生物
科学科教授



市川さおり
理学部物質生物
科学科助教

<企画部門>

サブリーダー：今城尚志
理学部物質生物科学科教授



林久史
理学部物質生物
科学科准教授

調査部門では本学卒業生に対する仕事・育児両立についてのアンケート調査の解析・集計を行いました。

アンケート結果は<http://mcm-www.jwu.ac.jp/~mcpweb/research/index.html>でご覧になれます。

企画部門ではシンポジウムの企画と実施、科学教室の企画と実施を行っています。

～プロジェクト推進室～

遠山客員教授を推進室長として、各部門の統括・推進室の運営を行っています。



室長補佐：坂牧貴子
理学部数物科学科非常勤助手



室長補佐：岩田かおる



推進室員：中村晴美

発行者 : 日本女子大学「女性研究者マルチキャリアパス支援モデル」プロジェクト推進室
発行責任者 : 小館香椎子, 遠山嘉一
住所 : 〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1 日本女子大学新泉山館2階
TEL&FAX : 03-5981-4154
E-mail : mcp@fc.jwu.ac.jp
URL : <http://mcm-www.jwu.ac.jp/~mcpweb/index.html>